

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りお作りいたしております。

大切な方への心を込めた贈り物に、京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司 俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル
電話 (075) 432-2211

烏丸店

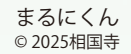
京都市上京区烏丸通上立売上ル
電話 (075) 432-3101

図明

令和七年 夏号(第二四号)



大森山相国寺
相国会本部



◆表紙解説
相国寺 法堂内「日牌」

額字は、相国寺住職で初代本派管長の荻野独園禅師が、明治新政府教部省大教院の大教正時に揮毫したもの。

相国寺法堂「日牌・月牌・花天井」新公開 本年「春の特別拝観」から照明設備が増設、一新される	2
屏風「抽象の桜」六曲一双 現代美術作家 岩澤有徑氏よりご奉納	3
菓子歳時記㊦「お盆の京菓子」	4
京菓子司 俵屋吉富 店主 石原義清	
相国寺を彩る樹木《第七回》	6
相国寺の今昔 一枚の写真から 相国寺に残るガラス乾板⑩「大通院 選佛場」(最終回)	7
御挨拶	8
宗務総長 佐分宗順	
「円明法話」「今に思う」	12
長谷寺住職 高山宗親	
特別寄稿 曹溪宗大本山月精寺を訪ねて	16
竹林寺住職 牛江宗道	
「まあるい まあるい」	20
演劇塾 長田学舎 梶田明子	
本山だより	25
坐禅会のご案内	36
教区だより	38
教化活動委員会活動報告	52
佐分宗順	
相国寺史編纂室だより	56
第28回「相国会本部研修会」開催のお知らせ	72
秋の特別拝観	73
北山だより	74
東山だより	75
承天閣だより	76
宝物拝見「色紙短冊貼交屏風」	80
第三教区 法雲寺「赤松円心公供養祭・赤松サミット」開催	82
第三教区 明覚寺 第六世 山崎浩宣新住職晋山	83
心のすがた	84

令和七年 盛夏

内局

管	承天閣美術館名譽館長	有	馬	賴	底
宗務總長	豐光寺住職	佐	分	宗	順
承天閣美術館館長	宗務總長兼任	佐	分	宗	順
庶務部長	慈照院副住職	久	山	哲	永
財務部長	眞如寺住職	江	上	正	道
教學部長	光照寺住職	荒	木	文	紹
庶務部員	養源院副住職	平	塚	景	山
財務部員	瑞春院副住職	須	賀	集	信
教學部員	是心寺住職	和	田	賢	明
承天閣美術館事務局長	林光院副住職	澤		宗	秀
承天閣美術館參事	普廣院住職	山	木	雅	晶
鹿苑寺執事長	長得院副住職	有	浦	宗	健
鹿苑寺執事	林光院住職	澤		宗	泰
慈照寺執事長	豐光寺副住職	佐	分	昭	文
慈照寺執事					

宗議会議員

宗務支所正副長

第一教区	慈照院住職	久山隆昭
第二教区	大應寺住職	久山弘祐
第三教区	見性寺住職	梶谷承忍
第四教区 副議	正善寺住職	穎川孝生
第五教区	眞乗寺住職	木下雅教
第六教区 議長	富田寺住職	加藤文保
龍源寺住職	田中恵山	
第一教区	林光院住職 (正)	澤宗泰
第二教区	大光明寺住職 (副)	矢野謙堂
第三教区	大應寺住職 (正)	久山弘祐
第四教区	本派宗務総長兼任 眞乗寺住職 (正)	佐分宗順
第五教区	園松寺住職 (副)	木下雅教
第六教区	富田寺住職 (正)	加藤文保
龍源寺住職 (正)	田中恵山	



相国寺書院に飾られた屏風



岩澤氏ご挨拶



佐分宗務総長より岩澤氏へ感謝状を授与



岩澤ご夫妻を囲み記念撮影

屏風「抽象の桜」六曲一双 現代美術作家 岩澤有徑氏よりご奉納

令和七年四月十五日



照明で明るくなった「日牌」「月牌」



達磨像、夢窓疎石像などを祀る「祖師堂」



大権修利菩薩像、足利義満像を祀る「土地堂」

相国寺法堂「日牌・月牌・花天井」新公開
本年「春の特別拝観」から
照明設備が増設、一新される

「お盆の京菓子」

京菓子司 俵屋吉富 店主 石原義清

祇園祭も終わりを迎えると京都もどこかしらお盆の気配となります。私も八月三日にはお墓のお掃除をしてご先祖様をお迎えする心づもりをしています。そして、この時期になるとお供えのお菓子ををご用意することになります。お墓や仏前に菊の押しものや最中といったややお日持ちのするお菓子をお求めに来られるお客様も多く、仏前に手を合わせたあとは早く召し上がっていただきたいところではありますが、多くは送り火までは供えられているようです。俵屋吉富の最中は昭和のあたりでは本店で「俵最中」という俵型の最中種に雲龍の小豆を使った粒あんをたっぷり詰めてお出しして

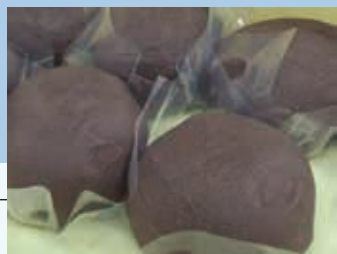


菊の押しもの



俵屋もなか

いました。最中種がパリパリだったので、すぐにあんなこの水分が移ってしまい、日持ちも三日間が限界。それでもひとつ百円の最中は毎日用意した数は売り切れていました。今は日持ちへの配慮が必要となりひと月ほど食べる猶予のあるパックされた「俵屋もなか」に変わりましたが、私は昭和の「俵最中」が懐かしい限りです。お盆といえば、「あんころ餅」もよく作るお菓子です。あん



あんころ餅

るお菓子がいいかなと「五山の彩」を創作しました。どら焼きの皮を上用饅頭のようにして五山の焼き印で仕上げてみました。お盆という習慣の中で、お菓子がお身内の輪の中やご先祖様に微笑んでいただけるようお勉強して参りたいと思います。



五山の彩

相国寺を彩る樹木

《第七回》

「ソテツ」

植昭 長岡造園 長岡秀晃

今回は観葉植物としても人気があり、和洋どちらの庭でも見られる「ソテツ」を紹介します。相国寺山内においては、承天閣美術館の玄関庭園に大小さまざまなサイズのものが植栽されています。

見た目はヤシの木やシダに似ていますが、全くの遠縁で「他人の空似」です。恐竜が生きていた中生代からあまり形を変えておらず、「生きた化石」とも言われている樹木です。

桃山時代から江戸時代にかけて流行し、各地の庭園に植えられました。当時は南方系の植物が珍しく、富や権力の象徴だったようです。「こも巻き」をして冬養生を行っているとこももあり、こも巻きをしたソテツの姿は各所の庭園の冬の風物詩となっています。相国寺ではこも巻きは行っていないませんが、問題なく越冬しています。温暖化の影響もあるかもしれません。

ソテツは漢字で「蘇鉄」と書きます。実際の効果は定かではありませんが、樹勢が弱ってきた際に根元に鉄を埋めたり幹に直接鉄釘を刺したりすると樹勢が回復するという言い伝えがあります。そのことから鉄で蘇る「蘇鉄」という漢字があてがわれたようです。旧家や神社の古いソテツの根元には実際に鉄が埋められていることがあります。

南方の植物ということもあり、一味違った雰囲気を持つソテツ。庭園の雰囲気も一味違ってしますので、美術館に訪れた際は庭園にもぜひ目を向けてみてください。



ソテツの庭

豆知識

葉先は尖っており、幹にもトゲがあるためうかつに触るのは危険です。
また毒性の高い植物で、葉・幹・種子全てに毒が含まれており、中でも種子の部分の毒性が強いです。



一枚の
写真から

相国寺に残る
ガラス乾板 ⑩

「大通院 選佛場」(最終回)



最終回の「相国寺の今昔」は大通院（相国僧堂）です。背が高く真っ直ぐ伸びる細い松の木の間から見える坐禅堂には、白い文字でくっきりと「選佛場」と書かれた扁額や花頭窓が見え、道場に続く回廊は生垣で囲まれています。当時撮影された場所の特定は非常に簡単でしたが…!?



昔の写真のような松の木は1本も残っておらず回廊の生垣もありません。
当時撮影された場所から撮影すると、背の低い木々に覆われていて全く建物が見えないので、少し近づいて違う角度からの撮影になりました。



当時と同じ扁額が掲げられていますが「選佛場」の文字は薄くなっていて時の流れを感じさせます。元は東山区の東福寺に伝わった無準師範の筆によるものです。

解説◎写真家 柴田明蘭

これまで十回にわたって紹介した相国寺に残る「ガラス乾板写真」は、当時とても高価なもので、専門知識が無いと撮ることが出来ないものでした。今の時代、「写真」はスマートフォンやデジタルカメラで簡単に撮ることが出来て、SNSやメールで簡単に送信することができます。しかしその写真が何十年、何百年先には、当時の状況を伝える貴重な一枚になることもあります。
そういうことを想いながら、皆さんも写真を撮っていたら、嬉しく思います。
ありがとうございました。

御挨拶



宗務総長 佐分 宗順

相国寺派寺院各位、檀信徒及び相国会会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。また暑い夏が巡って参りました。恒例の観音懺法会も無事厳修することができました。お盆に向け寺院では忙しい日々が続きますが、どうか猛暑の時期ゆえ体調には十分お気をつけいただき、ご精進いただきたいと思います。

先般、長く相国寺の総代と相国会会長を務めて頂き、先年勇退されました片岡匡三氏のご逝去されました。本山としては、去る二月十五日の涅槃会出頭後、納骨されました相国寺墓地にて諷経をいたしました。ここにその多大なご功績をたたえ、謹んで追悼の意を捧げたいと思います。

さて、相国寺承天閣美術館開館四十周年記念「相国寺展 金閣・銀閣鳳凰がみつめた美の歴史」は、昨年十月十一日から十一月二十七日迄の四十二日間、愛知県美術館

で開催され、八二、二〇五人の入館者がありました。

続いて、本年三月二十九日から五月二十五日迄の五〇日間開催された東京藝術大学大学美術館には、一〇五、二二二人の入館者があり、盛況のうちに無事終了いたしました。この東京展では、有馬頼底相国寺派管長の偈頌に、日比野克彦東京藝術大学学長の画を添えて、現代の詩画軸を再現して頂きました。二種類の詩画軸を東京藝術大学と相国寺本山にそれぞれ記念として残すことといたしました。承天閣美術館開館四十周年にふさわしい素晴らしい記念となったことはまことにありがたく、企画して頂いた高橋範子相国寺学芸統括と古田亮東京藝術大学大学美術館教授に感謝いたします。

引き続き、七月十九日から九月七日まで、北海道立近代美術館で「金閣・銀閣 相国寺展 若冲・応挙・芦雪―禅文化の名宝と美」が現在開催中です。承天閣美術館開館四十周年の最後を飾る記念展です。多くの方々にご覧いただけることを期待しておりますので、どうぞお出かけ下さい。

ところで、相国寺史編纂室が進めて参りました『相国寺史』第四卷「資料編近世近現代」が本年四月に刊行されました。第三卷は現在校正中ですが、来年度に出版予定です。そして最終巻である「通史編」の編纂が始まりました。いよいよ全巻刊行も見

えてまいりました。

平成二十二（二〇一〇）年に相国寺史編纂室を立ち上げ、相国寺史の編纂に取りかかってから十五年の歳月を経て、私の宗務総長在任中に完成の目途が立ったのは感慨深いものがあります。編纂室研究員の皆様はじめ本山事務局のご協力あればこそ、ここまでこぎ着けることができました。感謝する次第です。引き続き宜しくお願い申し上げます。

一方、長年の懸案であった相国寺の境内の北側にあるきよはくいん虚白院教会の再建計画が進み、着工の運びとなりました。同院は唯一の相国寺派の教会であり、今後は一般財団法人・京都仏教会の事務局としてご活用頂きたいと考えております。京都仏教会理事長でもある有馬管長の長年の念願でもありました仏教寺院の様々な問題を総合的に研究し、実践して参る組織として、その役割を果たして頂きたいと考えております。

国際社会は激変しています。トランプ大統領のアメリカは、イスラエルのテロとの戦いにおいて、イランの核開発施設の攻撃に踏み切りました。ロシアとウクライナの戦争は未だに解決の道が見えません。中国の日本近辺での軍事活動は激化しています。そのようななか、日本は対岸の火事では済まされない緊迫した状況にあります。国内においては、エネルギー政策、不法移民に対する施策、金融政策等対処しなければなら

ない問題が真剣に議論されないまま、アメリカやヨーロッパの悲惨な失敗を再現しようとしているかのようです。すでに欧米ではエネルギー政策や不法移民政策は大きく転換する方向に進んでいます。

最近では拝観に訪れる外国人の割合は、金閣寺や銀閣寺においても七割を超えています。その割合が増えれば、日本の宗教や文化に対する敬意を持って訪れる拝観客ばかりではなく、各地でトラブルが発生しているのが現状です。その結果、日本人の拝観者が混雑と環境の悪化を敬遠して減少しています。

拝観寺院の基本は、日本国内の拝観者に心おきなく寺院の宗教的環境を味わって頂くことです。安易に多様性や多文化共生が叫ばれる現代日本に於いて、私達の祖先が培ってきた日本の宗教や文化、伝統を守ることの難しさを実感する次第です。この困難を乗り越える力を持ちたいと思います。

今年度後半期も、引き続き計画した業務に専念して参りますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

「今に思う」

長谷寺住職 高山宗親

皆さん第三教区の長谷寺でございます。南北にとても細長い三重県の中ほどにある全国で一番短い市の名前で知られている「津市」西部「長谷山」の麓にあります。

当山の歴史は大変古く、大寶年間（七〇一〜七〇四）徳道上人の開基とされており、資料（板書）によれば、「大寶年間、徳道上人開基、天平十九年（七四七）堂成就供養導師婆羅門僧正、天平勝宝五年（七五三）、孝謙天皇行幸、その後炎上、建立の繰り返し云々」と資料に記されております。

また、「観音井戸」由来文によれば、「当寺は文武天皇の御宇大寶年間に開創されたもの

と言われ、はじめは七堂伽藍を完備し、塔頭の坊四十を超えるという極めて廣荘にして法雲天宮に輝く霊場であったが、前後七回に亘る火の災いに遭い、堂塔伽藍悉く烏宇に帰した。又、宇多の帝につながる伊勢源氏佐々木家は、寺領を寄進して代々その祈願所とせられたが、朝綱公は世継ぎなきを憂い賜い、その令室この長谷観音に日参して祈念願望成就、一子を授かり賜う。後に七朝の帝師と仰がれた夢窓国師その人である。」とも記述されております。

大本山相国寺勧請開山、夢窓国師生誕地として古より語り継がれております兼務寺院の

瑞林寺とは、法類関係にある摩訶不思議な寺院でございます。

さて、当寺境内には知的障害者支援施設などの福祉施設があります。これらの施設は、



観音井戸由来

昭和三十一年先代住職の故高山宗俊が「敬愛会」と名付けて知的障害の子供たちのための施設「津長谷山学園」を創設したのが始まりであります。元々教師をしていたことから知的障害児の指導について、特別に強い関心と熱意を持っておりましたことから、教壇生活を終えたのを機に退職金を投げ出して施設を創ったのであります。施設と言いましても寺の本堂や庫裏などを利用しました。当時の記憶によりますと、本堂は畳を取り外して教室に使い、書院は子供たちの宿舎に、庫裏は食堂として使用しました。又、田んぼや畑は実習場にしたのであります。

昭和三十一年二月一日、施設にやってきたのは小学校五・六年生の六人の子供たちでありました。皆、同年代のためお互いにすぐに打ち解け、まるでひとつの家族のように和気あいあいと過ごし、大変賑やかなものでありました。先代住職も毎日子供たちと寝食を共にして、献身的に尽くす生活をしておりまし



津長谷山学園と長谷寺全景

た。その行いは、まさに菩薩行そのものであり、その姿は観世音菩薩そのもののようでありました。

もちろん施設の創設については、寺族、地

に事業がスタートして以来今日に至っております。

大恩教主釈迦牟尼世尊は「一切衆生悉皆成佛^{ぶつ}」と仰っています。「この世に生きるすべてのものは皆悉く平等である、そして皆が仏性を備えているのだ」とお説きになっておられます。私たち、この世に生きるものすべてが仏様なんですよ、ですから、私たちはすべての人々に対し「慈悲のところで接しましょう。」と、このようにお教えになっております。

敬愛会について先代住職は、寺を開放し施設を創設するにあたり社会福祉法人の名称を「敬愛会」と名付けてその経営理念として「仏の慈悲のこころ」を宗（根本）としたのであります。「敬愛とは大慈悲心是なり」という

域の全面的な理解と協力が得られたことや、障害児教育に秀でた優秀なスタッフに恵まれたことは言うまでもありません。尚、建物や境内地使用に関して、当時の大本山相国寺山崎大耕管長猥下より「境内地等無償貸与について」快く承認いただいたお陰でもあります。

昭和三十一年十一月、厚生大臣（現厚生労働大臣）より社会福祉法人「敬愛会」として認可、昭和三十二年一月児童福祉法に基づく精神薄弱児施設「津長谷山学園」として正式



津長谷山学園のしおり表紙

仏教精神に基づき、宗教法人長谷寺を母体とした崇高な経営理念のもと、今日までいや今後も引き続き地域貢献につとめてまいるところであります。

宗教法人が、公益法人として地域の中における寺院活動の一環として仏教と福祉の融合を図るべく、寺を開放して自分の理想を思い描いた施設を創りたかったのであります。

最後になりますが、敬愛会に対しまして故村上慈海金閣寺長老様には、物心両面に亘るご援助をたまわりました。又、有馬頼底大龍窟管長猥下には、長年理事及び理事長をお勤めいただきました。お陰をもちまして、無事今日を迎えることができましたことに感謝申し上げます。心から御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

達磨無功德〈前編〉

竹林寺住職 牛江宗道

曹溪宗大本山月精寺を訪ねて

私は、令和六年十月廿三日から廿七日まで、大本山月精寺を訪問致しました。月精寺は、韓国の北東部にあり、曹溪宗の大本山のひとつであります。冬は寒さが厳しく、雪もかなり降り積るようです。日本の禅宗は、臨済宗、黄檗宗、曹洞宗の三者に分かれておりますが、韓国の禅宗は、曹溪宗のひとつだけです。『岩波仏教辞典第二版』によりますと、この曹溪宗は、「高麗時代

に成立したが、時期や創設者は不明」と書かれています。また、ある本によりますと、月精寺は、「六四三年、新羅の善徳女王時代に建てられた」と記されているほどの名利であり古刹であります。

次に、私が月精寺を訪問するに至った経緯について述べようと思います。令和六年二月のある日、私の親友である韓国僧の至仁和尚から、「三月上旬に月精寺管長さん数名と京都に行くので、そのとき松雲大師の墨蹟（書）が見たいので何とかして欲しい」との依頼がありました。因みに、私の

親友の至仁和尚は、花園大学と仏教大学で学び博士号をとっていますので、日本語はとても流暢であります。また、松雲大師（一五四一〜一六一〇）は、朝鮮王朝時代の韓国の禅僧で、江戸時代、徳川家康と京都伏見城で会見して、日朝平和を回復させ、のちの朝鮮通信史の来日の道を開かれた韓国の名僧であります。私は、その書が何点か、京都市堀川寺之内上ルにある、大本山興聖寺（望月宏済住職）にあることを知り、興

ました。昼食後、私は、一行を大本山相国寺へとご案内して、佐分宗順宗務総長にご挨拶申し上げました。この事がご縁となつて私が退宇管長に一度月精寺を訪問したい旨を告げると、管長様は快諾して下さったのであります。

さて、大本山月精寺は、五台山国立公園内にあります。山号は、五台山です。文殊

聖寺様にあらかじめ連絡をして、三月四日午前十時に、月精寺管長退宇正念住職一行四人とともに、望月住職のもとを訪ねました。望月住職は、寺宝である松雲大師の掛軸をご用意して下さいて、我々一行を大変歓待して下さいました。退宇正念管長一行は、これをご覧になり大感激をされ、盛んにスマートフォンに写真を撮られてい



写真1 月精寺本尊「毘盧遮那仏」

菩薩の霊場であります。私は、十月二十三日午前九時頃、月精寺に到着しました。すぐに宗務本所が見つかり、日本から来た旨を告げ、親友の至仁和尚^{チイン}に会いたい事を言いました。至仁和尚は、すぐに宗務本所に来てくれました。そして、私を別棟の一室に連れていってくれて、お茶を頂きました。私は和尚に日本から用意して来たお土産を渡しました。しばらく寛いだ後、本堂に案内してもらい、本尊毘盧遮那仏（写真1）の前で、法衣を着て、般若心経一卷をゆつくりと大きな声で日本語で唱えて、回向しました。管長様とご相見できたのは、午後二時でした。至仁和尚に通訳をしてもらって、管長様にご挨拶申し上げ、持参したお土産のお抹茶とお菓子を差し上げました。来客室には、すでに日本で知り合ったお二人の僧もおられました。一人は管長様の秘

書をされている若い真如禅師、もう一人は私と同年令の道正和尚です。管長様を中心に五人で歓談をしました。その間、真如禅師がプーアル茶を入れてくれました。お茶受けには、お菓子・果物とたくさんある中でも、生の朝鮮人参があり、これを蜂蜜につけて頂いたことが忘れられません。約一時間、談笑した後、管長様が我々四人を標高千三百メートルにある塔頭弥勒庵へ、車で（運転は至仁和尚がされた）案内して下さいました。弥勒庵のご住職が我々を出迎えて下さり、懶翁台^{ナオンデ}（写真2）の中に入れて下さり、ハングルで説明して下さいましたが、私には一向に意味が通じませんでした。しかし懶翁台から見る五台山の景色はすばらしいものでした。この後、管長様は我々四人を五台山の麓に湧く温泉に招待して下さい、夕食もおもてなしして下さい

ました。その夜は、至仁和尚が用意してくれた月精寺内の一室に泊まりました。翌廿四日から廿七日まで、至仁和尚が親切にも博物館も含めて月精寺境内（写真3）をもれなく案内してくれ、また車で外に出て曹溪宗のいくつかの名刹へも連れて行ってくれました。

（以下、後編に続く）



写真2 月精寺の懶翁台（標高1300mに立つ）



写真3 月精寺境内にて（筆者）

まあるい まあるい

演劇塾 長田学舎 梶田明子

ほ、ほ、ほおずきよう

まあるい まあるい ほおずきよう

まあるい さんごの ほおずきは

ああかい おべべに包まれて

ちようちん姿で まつてます

こんにちは。ほおずき売りにござります。ほおずきいかがにござりまするな。

あ、おかみさん、坊ちゃんこんにちは。…ほんまに暑おすなあ。…え、うちのこと心配してくれはるのどすか。おおきに。うちはものすご元気どす。こうやってお天道様がかんかん照って、雨がざーっとおしめりをくれるさかい、うちの商いものが、元気に育ってくれるのどす。ありがたいことにござります。…ひゃ、そんな。えらいやなんて。照れてしまいます。お天道様には負けまへんけど、おかみさんに負けそうどす。ふふ…。優しいお心ありがとうございます。

おかみさん、この真っ赤なほおずき、見ておくれやす。きれいに色づいておりましよう。…おおきに。りっぱや言うてくれはって嬉しおす。ほおずき畑の丹兵衛はんが、丹精こめて育てはりました。これをお盆のお飾りにしていただきましたら、ご先祖様がお家にお戻りになる、明るい目印になってくれますえ。…はい、

目印です。ほれ、この形、可愛いお提灯のようですよ。ほおずきが道を明るく照らすので、ご先祖様方は「おお、ここや、ここや」て、喜んで帰って来てくれます。

それに、ほおずきは厄除けの縁起物でもござります。坊ちゃん、見とくれやす、この美しい赤い色。これはお天道様が染めてくれたお色なんですえ。お天道様は毎日、西のお山へお入りになられた後、そつと地の下にもぐらはって、ほおずきの中でおやすみになります。お天道様の色が染みだして、ほおずきは、こんなに赤うなったのです。お天道様のお力をください



ほおずき売り
長田純著『町かどの藝能』より

てますさかい、悪いものは怖がって入って来まへん。家内安全、無病息災です。お天道様のお休み処やさかい、ほおずきは、むやみに手折ってはあきまへん。ちゃんとお天道様の分をお残しして、少しずついただいて来るのです。うち是最初、なんも知らんと一枝折ってしもて、丹兵衛はんにもものすご叱られました。：：そうなんです。うちはいつも、考えるより口や手足が先に出て：：あきまへんなあ。：：え、おかみさん、そんな優しいこと言うてくれはるのですか。：：うち、泣きそうです。：：あ、坊ちゃん、ほったらかしでごめんなあ。

ほおずきは、音鳴らして、遊ぶことも出来るんですえ。：：こうして、お衣をそつとむいて：：まあ実をやさしゅうもんでもんで：：これがなかなか根のいる仕事ですけど、ここで慌ててはあきまへん。：：ゆっくりゆっくり：「ほおずきさん、ええ音の笛になっておくれやすなあ」て、心を込めてもむのです。実がやわらこうなったら、皮がやぶれんよう種をとりだして、これをお口に入れて：：ギユ、ギユ、ギユ

面白い音がしますやろ。お盆のお飾りが終わった後に遊んでおくれやすな。：：いや、おかみさん、買ってくれはるのですか。おおきに。ほんにありがとうさんにござります。このほおずきでええお盆をお迎えしとくれやす。：：はい、うちも商いきばります。ありがとうさんにござりました。おおきに。おおきにー。

【おさだ塾次回公演のお知らせ】

「ゆーもれすく」 作・演出 西村諭士
〈あらすじ〉

京都丹波地方の山奥に、ひっそり佇む一軒家。この家には、足を悪くした老婆とその孫娘が、二人きりで住んでいた――。

時の流れ、文明の進歩の中で、大きく変わっていくもの。そして、変わらないもの……。

生まれ育った家への愛情と、衰えていく自身の不安との狭間で揺れ動く老婆の思いと共に、令和と明治の生活を描き、人々の心の営みを見つめます。

観る人皆が笑顔になってくれる演劇を――。京都で生まれ京都で育った劇団おさだ塾が「京都からの文化発信」を目指し、渾身の現代劇を上演します。

是非、劇場にお越しください。



前回公演の集合写真より

時・令和7年 11月1日(土)、2日(日)、3日(月・祝)
於・京都府立文化芸術会館 3階和室
お問い合わせ／おさだ塾 TEL・FAX (075) 431-6681
ホームページ／<http://www.osada-juku.com>

本山だより (令和六年十一月～令和七年六月)

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺(山木雅晶執事長)に於いて、開山忌、続いて開基足利義満公の諷経が厳修された。有馬頼底鹿苑寺住職も出頭のもと、山木執事長を導師に、佐分宗務総長はじめ相国寺一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

○歳旦行事

一月一日、例年のとおり歳旦の法要が相国寺本山で本山一山僧侶、徒弟が出頭し厳修された。法堂で有馬管長の祝語を小林老大師が代読し、祝聖より堂内各所で諷経、次いで開山堂、庫裏、方丈の順に諷経、修正、大般若祈祷等を行った後、書院にて小林老大師より賀詞を頂戴し、総茶礼を行った。

○臨黄合議所理事会

一月二十三日、臨黄合議所理事会が市内のホテルで開催され、佐分宗務総長が出席した。

○同宗連第一連絡会

一月二十八日、真言宗智山派智積院(京都市東山区)に於いて令和六年度第四回同宗連第一連絡会が開催され、本派からは江上教学部長、平塚財務部員、須賀教学部員が参加した。

会議後の学習会では「同性婚…多様性と本来」という演題で、川上全龍師(妙心寺山内塔頭春光院住職)の講義を拝聴した。

○臨黄教化研究会

二月六、七日、花園大学に於いて、第十九回臨黄教化研究会「これからの寺院について

「供養と運営」が開催された。

本派からは教区順に有浦宗健師（第一教区長得院副住職）、須賀集信師（同瑞春院副住職）、



臨黄教化研究会で発表する加藤幹人師

加藤幹人師（第四教区南陽寺住職）の三名が出席し、研鑽を積んだ。また開講式と閉講式、各班に分かれて討論する分科会には江上教学部長が出席した。

開講式の後、山川宗玄妙心寺派管長猗下（正眼僧堂老大師）に「寺の未来」、井出悦郎氏（一般社団法人お寺の未来代表理事）に「これからのお寺のあり方を考える」と題してそれぞれご講演をいただいた。

講演後からは各班に分かれ、テーマについての議論を翌日まで交わし、最後に班別の発表を行った。

○本山涅槃会

二月十五日、本山法堂に於いて、涅槃会法要が厳修された。

涅槃会とは、お釈迦様の亡くなられた日に行われる法要で、当日はお釈迦様の亡くなられた際に、多くの弟子やあらゆる生き物が集い、植物までも枯れて悲しんだという故事に

ちなんだ「大涅槃図」を掛けられた。

○臨済宗連合各派布教師特別研修会ならびに理事会

二月二十六日より二十八日まで、大徳寺（京都市北区）に於いて臨済宗連合各派布教団本部「布教師特別研修会」が開催され、初日の開講式と理事会には佐分宗務総長と江上教学部長が、最終日の閉講式には江上教学部長が出席した。

また研修会には本派布教師の平塚景山師（第一教区養源院副住職）、佐々木契堂師（第三教区天正寺住職）、松本昭憲師（第六教区光明寺住職）の三名が参加し、本年春の巡教にむけて研鑽を積んだ。

○京都古文化保存協会「特別公開」

三月二日より九日までの八日間、公益財団法人京都古文化保存協会主催の「京都非公開文化財特別公開」に協賛し、法堂・方丈・浴



相国寺・光源院特別公開のチラシ

室を公開した。同協会の法人六十周年の記念ということもあり、通常とは異なる期間の拝観で、短期間なうえ雨天が続いたこともあったが、最後の週末は好天となり賑わいを見せた。また同期間、山内光源院も公開された。

○定期宗会

三月六日、相国寺寺務棟桂芳軒に於いて、令和六年度定期宗会が開催された。

各教区より登山の宗会議員、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、宗務本所、承天閣美



出席者による諷経



議題を読み上げる田中議長



有馬管長と相見した各教区議員

術館の内局員全員の計十七名が出席し、審議が行われた。開会前には大光明寺にて、宗会議員が有馬管長に相見した。

開山諷経の後、田中恵山宗会議長（第六教区龍源寺住職）の進行により、令和五年度の本派・本山決算報告、令和七年度の本派・本山予算案が内局より読み上げられ、慎重なる審議を経て、すべて承認、可決された。

○禅文化研究所理事会

三月七日、禅文化研究所理事会が開催され、佐分宗務総長と久山財務部長が出席した。

○「明日の京都講座」開催

三月十日、「明日の京都文化遺産プラットホーム」の講座が相国寺書院で開催され、「室町幕府と相国寺」という演題で江上教学部長が講演したのち、参加者は須賀教学部員の案内で、法堂・方丈・開山堂を拝観した。

この「明日の京都文化遺産プラットホーム」



参加者へ法話を行う江上教学部長

は、平成二十二年に「歴史を活かしたまちづくり」を市民、大学、民間企業、行政等が一体となり、京都の文化遺産を将来に向けて継承するためのネットワークで、有馬管長が題字の揮毫をしている。

○彼岸供養法要

三月十四日、相国寺方丈に於いて、「春季彼岸供養法要」が、京都中央葬祭業組合、京都仏教会の主催にて執り行われた。

はじめに方丈にて本派布教師の平塚景山師（養源院副住職）による物故者親族へ向けて彼岸法話が行われた。

引き続き宮城泰年京都仏教会常務理事の弔辞の後、佐分総長を導師に法要が執り行われ、京都仏教会関係寺院僧侶や葬祭業組合役員も参列し、昨秋からの半年間に京都府下で亡くなられた方のご遺族や関係者が、故人の冥福を祈った。

○臨済宗連合各派布教団本部・布教師巡教

佐々木契堂師（第三教区天正寺住職）が三月十一日より十三日間、島根県の南禅寺派、相国寺派の二十四か寺を、平塚景山師（第一教区養源院副住職）が三月二十日より三日



彼岸の法話に耳を傾ける参列者



彼岸供養法要の様子

間、長崎県の大徳寺派の五か寺を巡教し、檀信徒へそれぞれ布教を行った。

○第五十二回 第四教区若狭少年研修会

四月三日、第四教区若狭少年研修会が開催され、児童十二名、役員六名、第四教区僧侶九名の合計二十七名が来山した。

早朝現地を出発した一行は、鹿苑寺（金閣

寺）特別拝観の後、相国寺に到着し、法堂、方丈を教学部員の案内で拝観した。

続いて、方丈で開会式を行い、全員でお経を唱え、佐分宗務総長と若狭相国会伊藤会長の話聞き、念珠と記念品を受け取った。

その後は書院で坐禅を体験し、本年は精進料理を作法に則っていただき、次の目的地へと元気に出発した。（47ページ参照）



第四教区伊藤理事挨拶



記念品を受ける参加児童

○本山降誕会

四月八日、降誕会法要が法堂に於いて執り行われた。降誕会は、花まつりとも呼ばれ、お釈迦様の誕生を祝う行事であり誕生仏像に産湯代わりの甘茶をかけ、お釈迦様と仏法の誕生を祝う法要である。

また、四月一日から八日にかけて、特別拝観公開の方丈においても、花で飾られた誕生仏を安置し、拝観者にも甘茶をかけていた。

○入制行事・開講式

五月一日、本山にて例月の祝聖法要、楞嚴会の後、相国寺専門道場にて入制開講式ならびに大般若祈祷が執り行われた。

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺（佐分宗順住職）では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。本山一山や関係寺院の和尚、役員ら



有馬管長と相見



開山諷経



訓辞を聞く相国会各理事・顧問

関係者が列席した。

○相国会本部役員会

五月三十日、本山寺務棟二階において、令和七年度相国会本部役員会が開催された。

令和六年度事業報告、令和六年度決算報告、令和七年度事業計画案、令和七年度予算案等の各議案について採決し、それぞれ承認可決された。

本年は十一月十三・十四日に「相国会本部研修会」が開催されるため、その概要説明が



議長挨拶をする第五教区山本理事

事務局からあり、各教区支部で募集を募っていた。会談終了後、出席理事・顧問は大光明寺にて総裁である有馬管長と相見した。(72ページ参照)

出席の相国会理事、顧問は左記の通り。

理事	顧問
第一教区 松井八束穂	澤 宗泰
第二教区 山本 英生	久山 弘祐
第三教区 土倉 忠彦	梶谷 承忍
第四教区 伊藤 彰	木下 雅教
第五教区 島田 英明	加藤 文保
第六教区 (欠席)	(欠席)

○令和六年 相国寺「春の特別拝観」

三月二十三日より六月一日まで、春期特別拝観として法堂・方丈・開山堂を公開し、一五、一〇五名の参拝があり、外国人拝観者の数もさらに増加している。



令和7年 観音懺法会ポスター

○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例により六月十七日午前七時半より厳修された。

法要参拝者を招いて、相国寺の「声明」が方丈内に響きわたった。

今回より拝観料の見直しを行い、法堂内の拝観動線を改め、照明設備を一新した。それにより、これまで間近でご覧いただくことの出来なかった「日牌」「月牌」の位牌壇、それぞれの天井に描かれている「花鳥画」計六十面もご覧いただく事が出来、龍の天井画と共に新たな魅力が加わった。

「秋の特別拝観」は、九月二十五日(木)より十二月十四日(日)まで、法堂・方丈・開山堂を公開の予定である。(表紙・巻頭カラー参照)

○観音懺法会「ご先祖追善供養」

六月六日より十三日まで、相国寺方丈に於いて、観音懺法会「ご先祖追善供養」が行われ、期間中に伊藤若冲筆の「動植綵絵(コロタイプ複製画)」を公開し、参拝者には間近でご覧いただいた。

諸役は次の通り。

役配	
導師	泰量塔主 (光源院副住職)
香華	景山座元 (養源院副住職)
自帰	養源和尚
打磬	文紹座元 (光照寺住職)
太鼓	昭文塔主 (豊光寺副住職)
大鈸	宗健座元 (長得院副住職)
中鈸	周真座元 (慈雲院副住職)
小鈸	集信座元 (瑞春院副住職)
維那	普廣和尚

○臨済宗連合各派布教団本部理事会

六月二十五日、大徳寺(京都市北区)において、布教団本部理事会が行われ、佐分宗務総長と江上教学部長が出席した。

坐禅会のご案内

本山維摩会

◆毎月第2・第4日曜日開催

(※1月第2、8月第2・第4、12月第4日曜日は休会です)

※行事等の為、予告なく休会することがあります。

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、経典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場…相国寺 本山大書院

時間…午前9時より11時迄

内容…坐禅(9時〜10時半)

法話(10時半〜11時)

注意点…当日は8時50分までに必ずお集まり下さい。10人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

(電話075-231-0301)

先着順に受付し、満員の場合はやむなくお断りする場合もございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀…服装は楽でゆったりとしたものが望ましく、肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

東京維摩会

◆開催予定日(8月、12月は休会です)

2025年 9月13日(土)、10月11日(土)、11月8日(土)

2026年 1月10日(土)、2月14日(土)、3月14日(土)、4月11日(土)

会場…相国寺東京別院 方丈・客殿

時間…午前10時半より12時迄

内容…坐禅、『証道歌』講話、茶礼

威儀…服装は楽でゆったりとしたものが望ましく、肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。(更衣室あり)

※最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。相国寺東京別院(電話03-3400-5858)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858

会場：方丈・客殿

〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

第一教区

○眞如寺住職、ドイツ・チュービンゲン大学
学会発表

昨年、ドイツ南西部のチュービンゲン大学より招請があり江上正道師（眞如寺住職）が二月十四日から十六日まで現地に出講した。同大学人文科学部アジア地域文化研究所教授であるモニカ・シュリンプ氏とは、一昨年から続く眞如寺勧請開基「無外如大尼の生誕八〇〇年」に合わせた論集や書物の発行、シンポジウム開催、日本で学ぶドイツ人学生を引率しての眞如寺訪問などを通じて以前より交流があり、今回ドイツでの学会発表が実現した。

大学の研究所・日本学科が主催した「現代仏教と神道における宗教空間」（Religious

Spaces in Contemporary Buddhism and Shinto）と題したカンファレンスにおいて、チュービンゲン大学をはじめ欧米と日本より計十二名の発表者が参集した。

江上住職は「思い出と居場所としての神社仏閣」というセッション内で『無外如大―中世日本の禅尼僧と京都眞如寺に伝わる尼僧の



ネッカー川と旧市街

系譜』（Mugai Nyodai - A Zen Master of Medieval Japan and Her Genealogy as Transmitted in Shinryoji, Kyōto）と題して発表した。日本の中世において男女の性別を超越した禅僧、無外如大尼が存在したことは、学会参加者にも驚きを与え、非常に関心が寄せられた。



チュービンゲン大学の学会で発表する江上正道師

チュービンゲン大学の創立は、日本では応仁・文明の乱の最終年にあたる一四七七年の事で、ドイツでも最古の大学の一つに数えられており、街と大学が一体となった旧市街は美しい歴史的建築が残っている。天文学のケプラー、哲

学者のヘーゲル、飛行船実用化のツェッペリン、精神科医のアルツハイマーなどは同大学出身者とのことで、文学者のヘルマン・ヘッセも青年時代にこの町で生活したという。日本の大学との協定もあり、研究者、学生の交流も盛んである。

○慈照院蔵「朝鮮通信使」関係史料を韓国へ
出陳

四月十四日、慈照院（久山隆昭住職）所蔵の史料六件（全十点）を、韓国ソウル歴史博物館からの依頼により、特別展「通信使」へ出陳した（展示期間は四月二十五日～六月二十九日）。

本年は、日韓国交正常化六十周年にあたり、江戸時代の二百余年間（一六〇七～一八一二）の長きにわたり、日本と朝鮮が維持した平和の象徴である「朝鮮通信使（朝鮮国王から日本に送られた外交使節団）」に関する特別展が、出発地の首都ソウルにおいて開催されたこと

は、極めて意義のあることであると同時に日韓両国を超え、世界的な意味においても重要なことであった。中でも、ユネスコ世界記憶遺産である「韓客詞章」はクローズアップされたようである。

コロナ禍以前は、毎年当院へ大学生及び大学院生の訪問見学があり、また在日の方の見学もある。願わくば、我が国の方々にも、これらのことを知っていただけたら幸いである。

○妙音堂春季大祭

四月二十二日、大光明寺の飛び地境内である出町妙音堂で恒例の春季大祭法要が開催され、矢野謙堂住職はじめ、第一教区より江上正道師（眞如寺住職）、中山周真師（慈雲院副住職）、第三教区より佐々木柴堂師（天正寺住職）、また雲納二名が出頭した。

法要の前に筑前琵琶の田中旭泉氏による奉納演奏、花土珠寶氏による献花が行われ、引き続き大般若奉読となった。妙音堂は辯財天

を本尊としており、その遣いとして蛇も祀られており、巳年の本年は多くの御参りがあった。

○眞如寺「半僧坊大権現御開帳法要」

五月四日、眞如寺（江上正道住職）に於いて「半僧坊大権現御開帳法要」が厳修され、春の特別拝観、お茶席、手作り市が行われた。

半僧坊の本山である静岡県浜松市の大本山方広寺より新野講社部長、第一教区より矢野謙堂師（大光明寺住職）、佐分昭文師（豊光寺副住職）、澤宗秀師（林光院副住職）、他縁故寺院に出頭いただき、圓通殿内で大般若祈禱が行われた。

法要後には、経本による厄除け肩たたきが午前、午後の二回行われ、多くの参拝者がこれを受けた。終日子供たちのお参りも多く、境内のカキツバタ、青もみじやつつじもちょうど見ごろとなり、さわやかな連休の一日となった。

○妙音堂巳の日法要

五月二十四日、出町妙音堂において第十三回巳の日法要が開催され、矢野謙堂住職をはじめ、第一教区より江上正道師（眞如寺住職）、佐分昭文師（豊光寺副住職）、中山周真師（慈雲院副住職）、第二教区より佐々木柴堂師（天正寺住職）が出頭した。この法要は妙音堂護持発展の為に、前回の巳年（二〇一三年）に矢野住職が起ち上げた法要で、一年に一度巳の月、巳の日、巳の刻を選んで厳修される。



心願成就を祈禱



般若心経唱和



祈禱札を渡す小島梨里杏氏

祈祷希望者は一名ずつ祈願事を住職が読上げ、その後拝殿内に入堂して住職より大般若の加持を受け、心願成就を祈念したお札を授かるものである。

特に本年は第一回目より干支が一巡して二回目の巳年を迎えた記念の法要となり、俳優の小島梨里杏氏が「一日辯財天」となって、信者一人ひとりにお札を手渡した。

（撮影◎柴田明蘭氏）

第二教区

○相国会第二教区支部 本山団体参拝

十一月十三日、本山団体参拝が檀信徒と住職・副住職三十六名が参加して行われた。

はじめに方丈にて佐分宗順宗務総長導師のもと般若心経を誦読した。次に相国会副総裁の佐分宗務総長と、相国会本部長の江上正道



方丈にて本尊誦経

教学部長より御挨拶を賜った。続いて相国会第二教区の山本英生支部長より挨拶があり、そのあとに記念撮影をした。
次に大書



第二教区山本理事挨拶



坐禅体験する会員

院で須賀集信教学部員の御指導で坐禅をして、それから荒木文紹庶務部員の御案内で「法堂・方丈・開山堂」の特別拝観をさせていただいた。そのあと昼食会場へ移動し懇親会を開いて親睦を深めた。
最後になり
ますが、団体参拝にあたり
本山の和尚様をはじめ職員



特別拝観で案内を受ける

の皆様方には、ご多忙中格別のご配慮をいただき、誠にありがとうございました。ございました。
（『円明』第一二三号43ページ参照）

○教区総会

四月二十六日、大雲寺（中川弘道住職・亀岡市）において、第二教区総会が七名の出席のもと開催された。

当日は、諷経のあと会議が行われ、定期宗会の報告と前年度の事業報告・会計報告がなされた。総会後は懇親会を行い閉会となった。



第二教区総会出席者

第三教区

○瑞林寺夢窓國師毎歳忌

三月二十三日、瑞林寺（三重県津市片田井戸町・長谷寺高山宗親住職兼務）では、開山毎歳忌を厳修した。

当日は、三年振りの晴天に恵まれ新緑のも



瑞林寺毎歳忌

と多くの参詣者が参列し、本堂において佐々木家先祖供養並びに井戸町戦死戦没者追善供養の後、夢窓国師生誕地記念碑前において大悲呪一卷を誦読参列者一同

夢窓国師の遺徳を称えた。

○法雲寺「赤松円心公供養祭・赤松サミット」開催

四月五日、法雲寺（兵庫県赤穂郡上郡町苔縄・江上正道兼務住職）において、以前より四月に開催されていた当山開基の赤松円心公供養祭を厳修した。



赤松円心公と足利家の話に耳を傾ける参加者

ただいている檀家ご夫妻に感謝状と記念品が授与された。

続いて、日本城下町楽会（姫路市）の主催で開催された「赤松サミット」では、はじめに上郡

町の梅田修作町長に挨拶をいただき、坐禅堂で四十人が坐禅体験、子どもたち参加の「赤松カルタ大会」とお菓子の配り、江上兼務住職による「法雲寺の歴史解説と法話」を広い坐禅堂を会場に行った。（巻末カラー82ページ参照）

今回の法要行事は、上郡町役場、上郡町連合自治会、苔縄自治会、老人会、手作り鎧兜



佐分総長より境内護持檀徒への「感謝状」が授与された

当日は、第三教区宗務支所長を兼任する佐分宗順宗務総長、同教区の福圓寺大谷昌弘師、見性寺梶谷承忍師、天正寺佐々木

契堂師、第四教区の南陽寺加藤幹人師、本山より平塚景山財務部員と法類でもある瑞春院副住職須賀集信師に出頭・加担を、また来賓として赤松家末裔の縁者、第三教区相国会主倉理事、上郡町他の方々にも多数列席いただいた。

円心堂、円心供養墓での諷経後は、坐禅堂「宝覺殿」前で、兼務住職、宗務総長の挨拶に続き、日頃より境内の清掃、護持に尽力い



「赤松手作り鎧かぶとの会」の皆さん

の会、地域おこし協力隊ほか町内外の有志によるご協力により実現し、自治会による人形焼と地元ぶどう農家によるジュースの振る舞

い、多数の甲冑武者による境内警護も行われ、たいへん賑わった。

また、これに先立つ三月三十日にも、境内清掃、坐禅堂障子貼りなどを縁者、有志の皆様が協力いただき行いう事が出来た。

このようにして、法雲寺の境内、坐禅堂活用の第一歩として、今回法要行事を開催することが出来たが、引き続き上郡町役場や地元自治会、地域おこし協力隊、赤松家末裔をはじめとする皆様と連携し、坐禅会や奉納演奏会、諸行事等を継続して出来るように努めてまいりたい。

【坐禅堂の活用に関するお問い合わせ】

相国寺派宗務本所内

教学部 担当 江上まで

電話 075-231-0301

E-mail: kyogaku@shokoku-jijp

○明覚寺晋山式

五月三十日、明覚寺（北海道旭川市）に於いて、澤大道国泰寺派管長（虚室老大師）、松本正道養賢寺専門道場師家（蟠龍窟老大師）、皆川彰久札幌瑞龍寺起龍軒老大師ご臨席のもと、前住職山崎義宣和尚退山式、並びに新住職山崎浩宣和尚晋山式が挙行された。

当日は晴天のもと、北海道内縁故寺院、相国寺専門道場会下会など、僧侶合わせて百五十余名が参列した。（巻末カラー83ページ参照）

第四教区

○若狭相国会 役員会

十月三十一日、眞乗寺に於いて相国会役員会を開催し、今後の予定について協議した。

○宗務支所 支所会

十二月六日、眞乗寺に於いて宗務支所会を

開催し、来年度の予定について協議した。

○若狭相国会 役員会

二月六日、眞乗寺に於いて相国会役員会を開催し、巡教及び少年研修会について協議した。

○若狭相国会 第五十二回少年研修会

四月三日、児童十二名、役員・住職十四名が参加し、鹿苑寺特別拝観後、大本山相国寺にて拝観、開講式、佐分宗務総長のご挨拶のあと、坐禅体験と精進料理をいただいた。

（31ページに関連記事）

○春期巡教

三月八～十日、臨済宗連合各派布教師の伊藤賢山師（建長寺派報恩寺）により、教区内五ヶ寺（円福寺、南陽寺、潮音院、西安寺、海岸寺）が巡教を受けた。

○若狭相国会 役員会

三月二十七日、眞乗寺に於いて相国会役員会を開催し、少年研修会等について協議する。



坐禅体験で警策を受ける



作法を聞いて精進料理を頂く

○宗務支所 支所会

四月二十一日、眞乗寺に於いて宗務支所会を開催し、定期宗会報告、令和六年度教区収支決算報告をおこなう。

○逸見祭^{へんみ}

四月二十六日、園松寺に於いて逸見昌経公の逸見祭を開催し、法類、役員、檀信徒多数出席された。

本年は高浜町「七年祭」の年でもあり、法要後に昨年に引き続き高浜町郷土資料館の倉田尚明氏による「逸見氏と七年祭の関係」と題した講演会が行われた。

○花まつり

五月三日、高浜・和田佛教教会主催にて毎年



逸見祭法要後の講演を聞く参加者



花まつり 子どもたちに甘茶を配る

開催している「花まつり」を行い、教区内関係寺院が出席し、町内パレードをする。

○若狭相国会 役員会

五月七日、「むらみゃ」に於いて相国会役員会を開催する。令和六年度会計監査報告、総会について検討する。

○若狭相国会総会

五月十九日、元興寺に於いて相国会総会を開催した。総会後には、妙心寺派宗務本所特別研究員の志水一行氏による講演「墨蹟にみる若狭の禅僧」を一同で拝聴した。

第五教区

○第五教区第二回住職会

一月三日、富田寺で第二回住職会を開催しました。この住職会では、令和七年度の三月に行う布教の巡教師と日程、続いて団体参拝についてお話を致しました。今年度の団体参拝は、本山開山忌にあわせて日程をくみ、さらに古都の行事に触れていただけるような行程を考えていることを説明致しました。

○年始会

一月三日、第二回住職会後に年始会を開催しました。年始会参加者は、昨年同様に第五教区ご寺院さま、出雲相国会並びに富田寺護持会三役で行いました。書院で新年の挨拶を交わした後、本堂に移り初月忌の御参りを致しました。



総会に参加する役員



総会で行われた調経



志水氏による講演

○出雲相国会・富田寺護持会合同三役会

一月三日、年始会終了後に開催しました。
この合同三役会は、主に出雲相国会と富田寺護持会それぞれの会で行われる行事が重ならないようにするためのもので、出雲相国会の事業日程をもとに確認を致しました。

○出雲相国会三役会

二月二十六日、富田寺で開催、三役会を開催しました。出雲相国会の令和六年度の事業並びに会計、令和七年度の事業（案）並びに予算（案）の確認や理事会及び監査・総会の日程について協議を致しました。

令和七年度の事業では、坐禅会場は昨年同様に本誓寺で行うこととし、団体参拝は行程表をもとに見積もりを出し、費用について話し合いを致しました。

○出雲相国会理事会

三月十九日、富田寺で理事会を開催しました。先般行った三役会をもとに、令和六年度事業と会計（見込み）の報告後、令和七年度の事業（案）と予算案を提示し、理事皆様の了承を得ました。

○出雲相国会監査

四月二十三日、出雲相国会総会前に富田寺で会計監査を開催しました。

○令和七年度第一回出雲相国会総会

四月二十三日、出雲相国会総会を開催しました。三月十九日の出雲相国会理事会と総会前に行われた監査を受けて、令和七年度の総会を開催致しました。

この総会で令和六年度の事業・会計と令和七年度事業・予算が承認されました。

第六教区だより

○第六教区住職会

四月十四日、午後六時より鹿児島県霧島市のホテルに於いて、令和七年度の第六教区住職会を開催し、教区寺院の和尚方が出席された。

はじめに、本山に於いて開催されていた令和六年度の定期宗会での報告並びに賦課金、相国会費等の徴収に続き、意見交換が行われ、引き続き懇親会に移り和気相合のもと閉会した、

当教区は各寺院が鹿児島、宮崎と遠距離なので、年に一度の住職会を楽しみにしており、今年も和合専一に親睦を深めた。



出雲相国会総会

研修会

【現代問題研究】

令和七年度後半の現代問題研修会は、引き続き信教の自由との関係をより緻密に検証しながら、寺院主導の健全なキャッシュレス決済システム構築のための作業を進めております。今年度中をめどに完成を目指します。

【相国寺研究】

今年度後半の予定はありません。

現在、『相国寺史』第三巻の校正作業と、最終巻第五巻・通史編の編纂作業に入っております。

【出版】

『相国寺史』第四巻 資料編近世近現代 発刊されました

相国寺史編纂委員会編 原田正俊・伊藤真昭監修

二〇二五年四月十五日発行

発行所 法蔵館 定価九、〇〇〇円＋税

内容

近世編は慶長五年（一六〇〇）から明治四年（一八七二）まで、近現代編は明治五年（一八七二）から昭和五十九年（一九八四）、古都税問題までの史料を収録しております。また付録として、すでに発行されている近世の資料集、『相国寺史料』全十一巻（思文閣出版 一九八四―一九九七）の構文が掲載されています。



【相国寺史既刊】

『相国寺史』第一卷 資料編中世一

相国寺史編纂委員会編 原田正俊・伊藤真昭監修

二〇一九年三月三十一日発行

発行所 法蔵館 定価九、〇〇〇円＋税

内容 建治元年（一二七五）～文正元年（二四六六）の史料を編年体にとめて掲載

『相国寺史』第二卷 資料編中世二

相国寺史編纂委員会編 原田正俊・伊藤真昭監修

二〇二三年一月三十一日発行

発行所 法蔵館 定価九、〇〇〇円＋税

内容 応仁元年（一四六七）～永祿十年（二五六七）の史料を編年体にとめて掲載

【相国寺史出版予定】

『相国寺史』第三卷 資料編中世三 二〇二六年度刊行予定

『相国寺史』第五卷 通史編 二〇二七年度刊行予定

『相国寺史』をお求めの際は、お近くの書店もしくは法蔵館へお問い合わせください。



○教化活動研修会 『講義録』・『相国寺研究』（バックナンバー）

過去に発行した各講座および研修会の『講義録』をご希望の方は、一冊につき手数料一、一〇〇円を添え、左記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「資料室」・「書籍案内」をご覧ください。

◆申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話 〇七五―三三―〇三〇一 FAX 〇七五―二二―三三九一

ホームページ (<https://www.shokoku-ji.jp>)



相国寺史編纂室だより ― 第五卷 通史編の始動 ―

二〇二五年四月に『相国寺史』第四巻 史料編近世現代が刊行しました。これで既刊の『相国寺史』は第一巻 史料編中世一、第二巻 史料編中世二と合わせて三冊になりました。次は第三巻の中世三を発刊する予定で、現在編集作業を進めています。

第三巻には、編年編（一・二巻と同様の形式）として、織田信長が足利義昭を奉じて上洛した永禄十一年（一五六八）から関ヶ原の戦いが起こった慶長五年（一六〇〇）までの相国寺に係る史料を年代順に掲載します。第三巻には編年編だけではなく、相国寺本坊や各塔頭で所蔵している中世関連の史料のうち、直接相国寺

に関わらなかったり、大部すぎたりしたため、編年編に収録できなかったものを所蔵塔頭ごとに掲載します。こちらには、戦国時代の書状を多数所蔵している光源院の文書や、室町時代に相国寺住持として活躍した禅僧の語録などが収録される予定で、初掲載のものなど見どころがたくさんあります。

また第三巻の作業と並行して、第五巻 通史編の準備も始まりました。通史編には、外交史・建築史・美術史・考古学など各分野の専門家の方々に、相国寺の中世から近現代までの歴史についての論考を書いていただきます。この一冊を読むだけで、相国寺や鹿苑寺・慈照寺に関す

る研究の最新成果や到達点が分かるものになるよう鋭意進めております。

昨年末、十四名の専門家に通史編への執筆を打診し、皆様に快くお引き受けいただきました。そして今年三月九日、相国寺で初めての通史編執筆者会議を開催し、十二名の執筆者にご参加いただきました。会議では、執筆作業の進め方などについて確認・議論を行いました。

会議終了後、執筆者の方々には相国寺の法堂・方丈・浴室を拝観してもらいました。その後、鹿苑寺に移動し、鹿苑寺寺務長に鹿苑寺の方丈・庭園をご案内いただきました。この日は天気も良く、執筆者の方々は水面に映る金閣の姿に大変満足しておられました。

既に執筆者の方々には、執筆にあたっての調査を開始していただいております。専門家の知

識が結集した通史編の刊行を、どうぞご期待ください。

（相国寺史編纂室研究員 中井裕子）



『第五巻 通史編』執筆者会議

The Future Active Advance 株式会社 YAMATO Technical Systems パソコンからネットワーク・サーバ構築まで IT 環境のトータルアドバイザー  〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町 19-13 TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494 e-mail: info@yamato-ts.jp	創業明暦年間  登録商標 七味家 〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352 ゴヨウハシチミヤ 0120-540738 9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00) https://www.shichimiya.co.jp/
こころをつたえる 和文具 和雑貨 株式会社 表現社 〒602-0861 京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354 https://hyogensha.net/	三楽税理士法人 代表税理士 奥谷 昌雄 代表税理士 内藤 誠 〒602-8026 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地 TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461
式典写真、風景写真など あらゆるニーズにおこたえます！ 柴田明蘭 写真事務所 (公益社団法人) JPS 日本写真家協会 会員 ☎ 090-8387-7735 FAX 075-311-9369 〒615-0057 京都市右京区西院東貝川町24 シェルブリュール 403	 TDS 寺社の電気、空調、防犯、防災設備 有限会社 土橋電気設備 〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4 まちやまちや 105号 TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332
 温故知新を織る…  株式会社 龍村美術織物 URL: https://www.tatsumura.co.jp/ 関西店 〒615-0022 京都市右京区西院平町25 ライフプラザ西大路四条2階 TEL (075) 325-5580 FAX (075) 325-5606 関東店 〒104-0042 東京都中央区入船一丁目5番11号 弘報ビル6階 TEL (03) 3551-5756 FAX (03) 3551-8117	お越しいただくあの方の為に あなたの想いの一番近くに イベント設営・レンタルの京老舗  株式会社 テラヲ貸物店 075-414-1464 office@terao-rental.com https://www.terao-rental.com

大本山相国寺御用達 御法衣・仏具 後藤利法衣店 〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094	大本山相国寺御用達 社寺建築 (株) 北村誠工務店 〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571
大本山相国寺御用達 文化財堂宇修復保存 社寺建築 設計・施工 数寄屋建築  澤基株式会社 澤野工務店 本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775 山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)	大本山相国寺御用達 庭園 設計・施工 樋口造園株式会社 〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル三軒町77 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120
天和三年創業 大本山相国寺御用達 藤安田念珠店 〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 TEL (075) 221-3735 https://ssl.yasuda-nenju.com/ 	大本山相国寺御用達 精進料理 矢尾 治 〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110
夢のある空間づくりのパートナー トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理 TOTAL DISPLAY  FUSHIMI KOHGEI 株式会社 伏見工藝 【本社】 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地 TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465 【宇治工場】 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地 TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254 e-mail: fushimi@d1.dion.ne.jp	貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達  後藤新助法衣仏具店 〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915番 ファクシミリ (075) 462-3616番 URL https://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp

明治30年創刊 宗教専門紙

中外日報

<https://www.chugainippoh.co.jp>

週2回(水・金曜日)発行
定期購読料(税込)
半年22,200円 1年44,400円

購読・試読のお申し込みは
☎0120-015-177



京都本社 〒601-8004 京都市南区東九条東山王町9
東京支社 〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-13

TEL.075-671-4800
TEL.03-3816-4721



感動のそばに、いつも。

JTB京都中央支店 TEL. 075-284-0173

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町 167 AYA四条烏丸ビル 2F
営業時間 9:30~17:30/土・日・祝日・年末年始休業



大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理

植昭 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004
HP: nagaokazouen-kyoto.com

大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇

株式会社 **佛光堂**

〒600-8033

京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)

TEL(075)351-4092 FAX(075)351-7231

受け継がれるご奉仕の心を大切に



オリジナル商品
をお創りします

ACT MIYAKO 株式会社 アクトみやこ

〒615-8083 京都市西京区桂長町15-24
TEL.075-634-5084 FAX.075-634-5085
E-mail: taichi-matsuo@actmiyako.co.jp

大本山相国寺御用達



深草瓦師 寺本甚兵衛

(株)寺本甚兵衛製瓦

〒612-0873 京都市伏見区深草瓦町 20

電話 (075) 641-0287

FAX (075) 641-9771

大本山相国寺御用達

京都市指定

有限会社 **丸水設備工業**

- 上下水道衛生設備 ●ボアリング井戸 ●消火栓設備
- 庭園池の濾過設備 ●お墓の雨水処理 ●設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32

TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998

京名物 **夷川五色豆**
京銘菓 **月しろ**

創業明治17年 京都 夷川 **豆政**

京都市中京区夷川通柳馬場西入六丁目264
TEL 075-211-5211 FAX 075-211-4520

京菓子司



千本玉壽軒

〒602-8474

TEL:075-461-0796 FAX:075-464-6717

京都市上京区千本通今出川上ル上善寺町 96

<http://sentama.co.jp/>

ブライトホール

家族葬専用 **別邸**

公益社

☎0120-004-200

24時間365日対応 無料相談

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社／京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590
東京支店／東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307
札幌支店／札幌市中央区南8条西12丁目3-6 TEL 011-561-2307

京都本店・薫習館 産寧坂店 京都駅 薫々 大阪本町店 銀座店 人形町店 横浜店 札幌店



YPG

ヨシダ印刷株式会社
株式会社ヨシダ洋紙
株式会社ヨシダ七尾
ワイピービズインブルー株式会社

大切な財産を「想い」と ともに大切な人へ。



相続・資産承継について、一緒に考える
お手伝いをさせていただきませんか？
相続に関する疑問やご不安がある方は、
最寄りの京都銀行の店舗まで
ご連絡ください。

ご来店予約はこちら



■個別の対策の立案、実行は税理士・弁護士等の方々と十分ご相談のうえ、ご自身の責任においてご判断くださいますようお願い申し上げます。■ご相談の中で当行にてご案内させていただく各種商品・サービスにつきましては、当行所定の審査や手数料等が必要な場合がございます。

京都フィナンシャルグループ

京都銀行 鞍馬口支店 075(441)8111

ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO



世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 振替京都 01090-4-3476

抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位
自園茶 農林水産大臣賞31回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶

まんねのみどり
萬年乃翠

御薄茶

じょう
常光



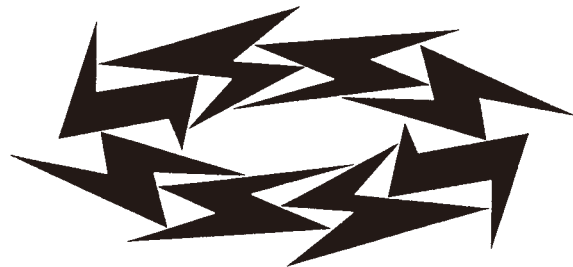
大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)20・0909
●西洞院店 茶房「元庵」 水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)223・0909
●ジエール京都伊勢丹店地下一階
●京都高島屋店地下一階和菓子売場
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

文化を守り、未来へつなぐ

電気設備工事・消防設備工事



足立電気工業

Adachi Electric Industries

〒601-8045 京都市南区東九条西明田町 34-21

TEL 075-681-4461

HP www.adachidenki.co.jp

FAX 075-681-9767

E-mail office@adachidenki.co.jp

大本山相国寺御用達

京表具・古文化財保存修理

法悦庵
Conservation & Restoration
YAGUCHI KOETSUAN LTD.
koetsuan.com

【取扱品目】

文化財修理 / 文化財調査 / 文化財 IPM

一般表具 / 頂相製作 / 絵画企画制作

漆・金箔・収蔵施設改修工事 他

LINE 相談



HP



有限会社矢口浩悦庵
六〇二一八〇二五

京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町三一八番地
本社・工房 ☎(075) 二五四一六〇二二 FAX (一六〇三二)
東京営業所 ☎(042) 四四二一〇一七七

相国寺東京別院施工



誠心誠意 美しく正しい仕事を



株式
会社

水澤工務店

東京都江東区木場5丁目6番地1号
TEL 03-3641-7111
URL www.mizusawa-inc.co.jp



皆さまのお役に立てる、
コインパーキング。

着実に、一步一步。

キョウテク株式会社

本社

TEL **075-365-8000** FAX **075-365-8080**

〒600-8172 京都市下京区下平野町483番地1

DNP



重要文化財「洛中洛外図屏風」/林原美術館
DNP独自の技術により精緻な再現性と耐久性を両立させた、文化財複製です。

歴史を未来につなぐ技術。

私たちは、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。



未来のあたりまえをつくる。

大日本印刷株式会社

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



URL <http://matsuishuzo.com>



享保十一年創業 清酒 「五紋神蔵」 醸造元

松井酒造株式会社

京都市左京区吉田河原町1の6

電話 075 (771) 0246

ともに創る、豊かな未来へ。

〈みずほ〉の総合資産コンサルティング力を活かして、
お客さまのライフプランに応じたサービスを提供します。
お客さまに寄り添い、ともに歩んでまいります。

みずほ証券

みずほ証券 京都支店 TEL.075-231-8881
〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20
みずほ銀行京都支店2階

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

建物の総合管理(警備・清掃・設備・植栽)

抗菌・抗ウイルスの効果が持続する薬剤

KYOH PARA Alivio

販売をいたしております。

SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)を対象とした
反応検査で不活性化を確認できました。

都総合管理株式会社

京都市上京区堀川通中立売上ル福大明神町119番地の1
TEL:075-415-0001 FAX:075-415-1155



人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

竹中大道具館(兵庫県神戸市)
設計施工: 竹中工務店

株式会社 竹中工務店



京都人さえもが恋するホテル。



BRIGHTON
KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360
<https://kyoto.brightonhotels.co.jp/>

● 編集後記 ●

◇全国の相国会会員諸氏をはじめ本派各寺院、関係各位の皆様、暑中お見舞い申し上げます。『円明』第124号を発刊することが出来ました。原稿、写真、広告等をお寄せいただいた皆様に御礼申し上げます。

◇今年は冬から春先にかけて、全国で山火事が多発しました。いずれも大規模なものばかりで、地球温暖化との関連を指摘する専門家もいます。そのうち、岡山市南部の山火事では、明治の相国寺住職で初代管長の荻野独園禪師出生地記念碑がある地域まで間近に迫るものだったようです。各地で消火作業に関わった皆様の努力に頭が下がる思いであると同時に、被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。

◇4月3日には昨年に続き第四教区若狭少年研修会を開催し、小学生たちが鹿苑寺、相国寺に来寺されました。コロナ禍による休止期間を経て、再開の2度目です。少子化の影響などで参加者が減少しておりますが、少しでも多くの皆さんに来ていただける研修会にしたいと思えます。

◇5月30日には相国会本部役員会を開催し、今秋11月13・14日に第28回「相国会本部研修会」の開催が決まりました（概要は72ページ参照）。各教区の菩提寺様を通じて、参加の申し込みをお待ち申し上げております。

◇長らく相国会会長、相国寺派専門道場である大通院の総代等をお勤め頂き、相国寺に多大なるご尽力頂いた片岡匡三氏がお亡くなりになりました。片岡氏は北海道に生まれ、十代半ばで相国寺の専門道場に居士として在住だった叔父の片岡仁志京都大学教授の導きにより上洛後、学生として修行僧と共に道場生活を体験されました。教員になられてからも梶谷宗忍老師（後の相国寺派管長）をはじめ修行生活を共にされた多くの僧侶との交友を深められ、ご自身の教員生活は「禅の教えが深く根差したものだ」と振り返っておられます。

10月21日の相国寺開山忌で、最後に相国会会員一同で行う諷経も、氏のご提案から始まったものです。本誌にも相国会会長としてご挨拶文をたびたび頂戴しました。ご自宅に原稿を頂戴に伺い、書斎に通していただくと、本棚には「水は方圓の器に従う」「授かった命を精いっぱい生きる。今という環境で精いっぱい命を輝かせよ。」などと直筆の墨書が貼られており、禅的生き方を常に実践された大居士であると感銘を受けたものです。ご家族の許可を得て、小欄にて報告させていただき、先生への感謝と共にご冥福をお祈りいたします。

◇本年の暑さも厳しいものです。皆様もお盆の諸行事、墓参には、日除け、水分の携帯をお忘れなきよう、どうぞご自愛ください。合掌（江上正道 記）

えん みょう
円明

令和7年(2025)夏号(第124号)
令和7年(2025)8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派事務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <https://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

禅のことをもっと……



あなたが信仰されている臨済宗・黄檗宗の教理や歴史について、もっと知りたくありませんか？ 禅文化研究所では入門書から専門書まで幅広く発行いたしております。

おすすめ本のご紹介



新 坐禅のすすめ
定価 1,320 円



維摩経
ファンタジー
定価 1,430 円



臨済宗檀信徒経典
定価 715～880 円
(数量によって価格変更あり)



季刊『禅文化』
年間購読料
5,280 円

書店やネットでも購入できます。価格はいずれも税込みです。

お申し込み、お問い合わせは下記まで

公益財団法人 禅文化研究所

TEL 075-811-5189

FAX 075-811-1432

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 花園大学内
メール: sales@zenbunka.or.jp





法堂「月牌」花天井

相国寺 秋の特別拝観

令和7年9月25日(木)～12月14日(日) 拝観時間：午前10時～午後4時

※10月18日(土)～21日(火)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。

※10月3日(金) 4日(土)、5日(日)、12月8日(月)は法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

拝観場所：法堂・方丈・開山堂

拝観料：大人 1,000円／小・中・高生 500円

※法要・行事のため予告なく拝観休止または拝観時間を変更することがあります。

第28回 「相国会本部研修会」 開催のお知らせ

【開催日】 令和7年 11月13日(木)～14日(金)

参加資格

相国会会員
(相国寺派寺院檀信徒)

募集定員

40名
(宿泊施設を利用します)

主な研修内容

- | | |
|-------|---|
| 初 日 | 相国寺拝観、坐禅研修
「相国寺と禅に関する法話」など
(南禅会館宿泊) |
| 2 日 目 | 大本山南禅寺特別拝観、昼食後解散 |



申込方法

各菩提寺を通じて、申込用紙にご記入の上、お申し込みください。

【問い合わせ先】

相国会本部 相国寺派教学部

TEL 075-231-0301

E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp

鹿苑寺境内の銘木保全について

世界遺産である鹿苑寺を形成するうえで、必要不可欠なものはいくつもございます。その一つとして植物は決して欠かすことができない要素となっております。その中には銘木と呼ばれるものもいくつか存在しており、方丈の前庭にある江戸時代前期に第一〇八代・後水尾天皇がお手植えしたと伝わるツバキ「胡蝶侘助」もそれにあたります。

「胡蝶侘助」に関しては、一九五七年に武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園の依頼で枝分けをし、お預けしました。同社では、一九五七年から一九五九年にかけて、銘椿と呼ばれる京都および奈良の十の寺院に植栽されているツバキ二十七品種を、万が一の株の枯死等のトラブルに備えて、大切な遺伝子を保全する目的で枝を預り、挿し木繁殖を行っていました。その後、

繁殖した個体を育成し、現在に至るまで維持管理を続けられています。鹿苑寺としましては、貴重な植物をもしもの時に備えて大切に管理していただいております。

本年には、さらに二種の銘木をお預けし、種の保全のためのお力添えをお願いしております。

一つは、鏡湖池の南に植えられている「淡墨桜」です。

「淡墨桜」は、岐阜県本巣市（旧根尾村）に現存する樹齢約一五〇〇年余りの古木で、鹿苑寺大書院の障壁画のモデルにもなっております。この障壁画がご縁となり、平成一〇年に若木が寄贈されました。

もう一つは京都三松の一つに名を連ねる「陸舟の松」です。かつて足利義満が盆栽として愛でていた松を地植えしたものと伝えられており、樹齢は約六〇〇年と考えられております。

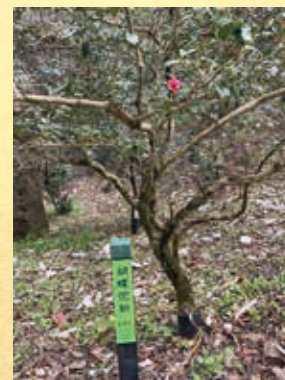
いずれも、鹿苑寺にとってはなくてはならない銘木ですので、当寺としては、将来に起こりうるリスクに対処できるようにと考えてお預けしております。



淡墨桜



陸舟の松



胡蝶侘助（京都薬用植物園にて）

春の特別拝観について

慈照寺では、三月二十一日から五月六日まで春の特別拝観を開催いたしました。

今年の春先は寒暖差が激しく、桜の花芽が十分寒さに晒されたこともあって、順調に「休眠打破」による目覚めを迎え、そのおかげで哲学の道周辺の桜はいつもの年より長く美しい姿を見せてくれました。また、灌仏会（かんぶつえ花まつり）の時期でもありましたので、本堂前に安置したお釈迦様のお像に柄杓で甘茶を注がれる外国の方も多く見られました。

春を感じさせる暖かな日差しの下、特別拝観期間中に延べ二、二〇〇人の方にお越しいただきました。拝観後にお聞きしましたところ、国宝東求堂をご覧になった方からは「歴史の教科書にある初期の書院造を直接見られ、義政公がここでどう過ごされていたのか想像が尽きません」と、本堂をご覧になった方からは「与謝蕪村、池大雅の襖絵をわずか三〇cmの距離から見ることができ見どころが増えました」とさまざまなご感想をいただきました。

国宝東求堂は、義政公の感性が随所に表現された歴史的成果の原点ともいえる貴重な建物ですが、そんな唯一無二の空間を五百年の時を超えこの特別拝観で十分鑑賞いただけたものと思います。

戦乱の時代に信仰を心の支えとする人々に受け入れられ発展してきた東山文化の象徴である建造物をこれからも末永く守って参りたいと思います。



お釈迦様飾りの様子



哲学の道の桜



春の特別拝観の様子

承天閣だより

Jotenkaku Museum

【畠中光享 日本画展 清浄光明を描く】展

畠中光享氏による講演会を三回に分けて開催いたしました。一回目が「日本画の歴史と今後の日本画を考える」。二回目が「日本画の問題点」、三回目が「過去から日本画の可能性を考える」と題して、熱く語っていただきました。また、展示会場にて、ギャラリートークを六回開催し、ご自身の作品についての背景、制作意図、時代背景などについて、熱く語っていただきました。



テープカット



ギャラリートーク

承天閣美術館40周年記念

「相国寺展 金閣・銀閣 鳳凰が見つめた美の歴史」

2025年3月29日～5月25日

東京藝術大学美術館で開催されました。



内覧会を前に行われた法要



会場の様子



有馬管長と
日比野学長の
詩画軸

次期展観予定

【屏風 黄金の調度】展

日本の家屋の調度品のなかで、屏風は部屋の仕切りなどに使われてきました。二枚、六枚と繋がれた画面は、その折り目にあわせて立体的に我々の視覚に迫ります。特に金地に鮮やかに描き込まれた画題は大きな存在感を誇ります。描かれる内容も、中国の故事、日本の風俗、四季の花鳥など、多岐にわたります。本展覧会では、相国寺を荘厳した伝来の屏風群を中心に、水墨、金地の華やかな屏風など、館蔵の屏風を公開いたします。



屏風展先行ポスター

I期 令和7年10月19日(日)～12月21日(日)

(展示替休館と年末年始休館、令和7年12月22日～令和8年1月10日)

II期 令和8年1月11日(日)～3月8日(日)

【オリジナル御朱印】

「屏風」展、オリジナル御朱印授与を検討中でございます。
(数量限定・書置きのための対応です)

【ミュージアムショップ】

「2025年 当館オリジナル新商品発売のお知らせ」

○紳士用夏扇子「7寸5分35間 雲龍図 能阿弥筆」

：紳士用夏京扇子として使えますが、インテリアとして
広げて飾って楽しむこともできます。(数量限定)

また、ご進物用として感謝を込めた贈り物としても如
何でしょうか。

ミュージアムショップ商品の発送も承ります。



紳士用夏京扇子

【照明設備を発光ダイオード(LED)照明工事に伴う臨時休館のご案内】

臨時休館…2025年6月23日(月)～10月18日(土)

ご迷惑をお掛け致しますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

若冲・応挙・
芦雪
— 禅文化の
名宝と美 —

金閣・銀閣
相国寺展
しょうこくじ

Zen Heritage:
Shokoku-ji,
Kinkaku-ji, and
Ginkaku-ji,
Kyoto

2025.
7.19[㊤]—9.7[㊤]

会期中、一部展示替えをします。
前期：7月19日(土)～8月11日(祝・月)
後期：8月13日(水)～9月7日(日)
〔休館日〕月曜日(7月21日、8月11日を除く)、
7月22日(火)、8月12日(火)
〔開館時間〕9:30～17:00
7月25日(金)カルチャーナイトは9:30～21:00
8月22日(金)、29日(金)、9月5日(金)は
夜間開館で9:30～19:30(入場は各開館時間の30分前まで)
主催：北海道立近代美術館、大本山相国寺、
日本経済新聞社、テレビ北海道、北海道新聞社
共催：相国寺永天閣美術館 特別協力：鹿苑寺、慈照寺
協賛：伊藤組グループ、伊藤忠商事株式会社、
平和不動産株式会社、上つ葉乳業株式会社
後援：北海道、札幌市、札幌市教育委員会

北海道立近代美術館
HOKKAIDO MUSEUM OF MODERN ART

展示会公式ホームページ
<https://www.tv-hokkaido.co.jp/special/shokoku-ji/>

本上から時計回りに：金閣寺、(大徳院)〔部分〕仏教美術展、室町時代、臨濟寺、(中興寺) 臨濟寺、(部分) 経典展、(部分) 経典展、(部分) 江戸時代、相国寺、(佐世保)〔部分〕
伊藤忠商事、江戸時代、鹿苑寺、国文(漢文)展、(部分) 立所蔵、中国・南宋時代、相国寺、(牡丹台)〔部分〕伊藤忠商事、江戸時代、慈照寺

色紙短冊貼交屏風

六曲一双 紙本墨書 江戸時代 十七世紀 相国寺蔵

江戸時代の相国寺の什物目録では、屏風は宝物の項目ではなく什具の項目に記される。祈りの対象ではなく寺院空間の仕切りなどにもちいる調度品といった意識であろう。明治四十一年（一九〇八）に相国寺本山の什物を場所別に一覧にした『常住什具統記』にも、屏風は玄関にまとめて十件ほど納められていた。そのなかには現在重要文化財に指定されている長谷川等伯の「竹林猿猴図屏風」なども含まれる。しかし、玄関ではなく蔵に宝物とともに収められた屏風が一件存在する。同書南蔵部には、重要文化財の陸信忠筆「十六羅漢図 十六幅」の前に、

一 和歌貼交金屏風 一双

とあり、和歌が記された料紙が貼られた金屏風が宝物とともに蔵に収められていることが確認できるのである。

江戸時代の記録にさかのぼると、同様に、什物帳に特別扱いされている屏風が存在する。寛文十一年（一六七

一）七月、相国寺住持交代にあわせて什物目録『交割帳』（一冊 相国寺蔵）が制作された。そして、その蔵には、

法皇御寄進和歌金屏 一双

の存在が記されているのである。和歌が記された金屏風が、当時の法皇、つまり後水尾院によって相国寺に寄進されたのである。

さらに、天正十二年（一五八四）に第九十二世相国寺住持となった西笑承兌から明治三年（一八七〇）の第一二六世に着任した獨園承珠の明治四年（一八七一）の寄進まで、歴代の相国寺僧を中心に相国寺に寄進した人物及びその什物を年代順に記した『寄進帳』が残る。そこには、後水尾院が寛文七年（一六六七）に自身の息子、八条宮穩仁親王の追善のために奉納した品々が記録され、その一つに、

金屏 新筆色紙短冊 二双

とあり、色紙や短冊の貼交金屏風が後水尾院から寄進されたことが明記されているのである。色紙、短冊は「新筆」、当時の人々が新たに染筆した。本品の修理の際に和歌や短冊の裏面に染筆者の名前が記されていることが判明し、後水尾院の息子や娘、当時の関白以下公家の手によることがわかった。この屏風はまさに相国寺が所蔵する屏風の中でも別格の存在感を今も放っているのである。

作品解説／承天閣美術館 学芸員 本多潤子



色紙短冊貼交屏風（旧表装）

「赤松円心公供養祭・赤松サミット」開催

令和七年四月五日

(44ページ参照)



「円心堂」で厳修された円心供養法要



坐禅堂前で挨拶する江上兼務住職



念願の坐禅が再開



「赤松かるた大会」に参加の子どもたち

第三教区 明覚寺 第六世
山崎浩宣新住職晋山

令和七年五月三十日

(46ページ参照)



境内へ向かう新住職



住職辞令伝達



「晋山の偈」を唱える新住職



晋山式記念撮影

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

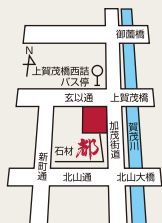
株式会社 石 杖 都 みやこ



相国寺供養墓



社長 吉田 健次



正月以外無休 営業時間／AM8:30～PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイイシ
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)

工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 ヨクソ ヨイイシ
(洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。

心のすがた

雨中看杲日

れんじゅしゅう
『聯頌集』

うちゅう こうじつ み
「雨中に杲日を見る」

「杲日」とは太陽が明るく光る様子。
雨が降る中に太陽を見る。雨降りの
時に、空に太陽が無いとは考えず、
常識的分別、執着を超えたところにある、
本来のはたらき、本質を見ることが出来れば、そこに真理がある。